



手づくり情報紙



暖温帯と冷温帯の
木々が共存する
紀州の箱庭!

深く茂る森

「百間山溪谷」を トレッキング!

今回は、恒例となりました、ぶらむ探検隊の「トレッキングツアー」。
このところご無沙汰中のぶらむ2号はまたまた欠席…。そこで今回は、社長と事務所スタッフを連れ出して「じゅっほ〜っ!!」

溪谷の入り口すべにあるのが、大塔村に生息する特別天然記念物「ニホンカモシカ」を自然飼育している「かもしか牧場」。
語り部さん曰く、「ここには現在一頭のニホンカモシカが暮らしているようなんですがいらない、ニホンカモシカはどこにも見当たらない。どうかわけで会えませんでし

た。ぶらむ探検隊の落ち込む気持ちよそに、語り部さんは次のスポット「梅太郎淵」へと誘導。本格的に山の中へと入っていくにつれ、滝の水音が聞こえ始めました。溪谷に入り、まず最初に姿を現す梅太郎淵は、龍のような姿をした樹齢500年といわれる馬目の木があり、昔「梅太郎」というきこりが切り落とした根が根付いたものだといわれています。梅太郎淵をあとに、岩と岩の間に設けられた急な鉄の階段を上ると次に「かやの滝」が目の前に広がります。優美に流れ落ちる滝に「うっわっわ…」と。溪谷に入りまだ数分だといつものどんとんと異空間へと吸い込まれていく不思議な感覚に包みこまれていきます。



【かやの滝】



【かやの滝】今はその姿を見ることが出来ないが、昔、滝の上部に樹齢300年といわれる見事なかやの大木がぶら下がっていたことから名づけられた。【ふたおい釜】水の流れの中、石が回りながら長い年月をかけて作り上げた大きな穴の上部にふたをかぶせたように岩盤がおおいかぶさっている。このあたりは「砂岩」といわれる柔らかい岩が多い。百間山溪谷には自生している藤が多く、かなりの樹齢のものを見ることができる。藤のツルの左から右に伸びたものはめでたいのだと語り部さんに教えてもらいました!春は一面の紫の花、夏には藤の実がたくさん垂れさがる【藤の中島】も必見。

百間山溪谷（ひゃっけんざんけいこく）は、百間山（999m）の山麓3kmあまりに渡り、大小18の滝や奇岩が連なる、深い自然におおわれた滝・淵・峡の宝庫。約100mごとに繰り広げられる見事な自然美をたのしむことができます。

今回の案内人
伊藤 幸子さん



【ふたおい釜】



Hyakkenzan valley



木漏れ日を浴びながら、
ふかふかとした
落ち葉の道がある。



さて、すいぶん渓谷の奥深くまで進んで参りました。と言っても中間地点はまだ先。

「雨乞いの滝」で少し休憩。高さが約10mあり、樹林の中に清々しく落ちる雨乞いの滝は、かつて日照りが続くところから信衆をあげ、雨乞いをしたといわれています。

10分あまりの休憩を済ませ、次の目的地は「地蔵滝」。地蔵滝は丸い形をした岩がちよつと、お地蔵さんの頭のようであることから称された滝だそうです。(別名、小松滝とも呼ばれています。)

この辺りから、足元には20〜30cmあまりの大きな葉がちらほひ…。これがトチの木です。と語り部さん。目の前には迫力満点の巨木。見上げれば、枝がめいっほいに広がって空を覆いつくしている。そつこつと足元は、足元ばかり見て歩いてきた今までの道のり。空を見上げてみると、日光を浴びようとする自然の競争が繰り広げられていたのでした。しばらく歩いていると、今度は4〜5mほどの大きなトチの実が落ちてくるのを発見！

そして、ここからはトチの実拾いを楽しみながらのトレッキングとなりました。

そろそろ、探検隊もお疲れの様子…。時間も丁度お昼時といつこいで、百間山渓谷の中で最も優美な姿をした「大落の滝」でランチタイムです。(スケジュール通りの進行ですよ！)

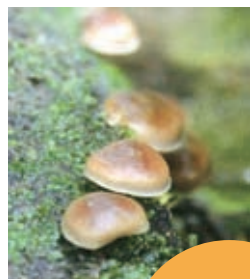
ランチタイムを終え、ここですでに中間地点。休憩をしたせいか、何だか体が重い…。しんどい…。そのうえ、ここからさらに急な山道が続き、探検隊の口数は徐々に減っていく中、元気のほうから1号と語り部さんのみとなり、二人の会話は次回のトレッキングツアーの話へ盛り上がりつつゆくのぞろ。(ごつごつ期待!!)

後半は、次々と名も無き小さな滝が続き、途中の力エリに遭遇して大騒ぎもしました！

今回の深谷ツアーのゴールでもある「千体仏」が近づくにつれ、周りに茂る木々の雰囲気にも変化が。そして、ぽあ〜と空が開け、「千体仏」に到着です！その瞬間、なんだか現実に戻ってきた気分でした。



お弁当は、中辺路町のママさんグループ「グループはてなし」さんが作ってくれた手作り弁当。程よい疲れと滝を見ながらという最高の景色の中食べるお弁当は最高に美味しい！
本日のメニューは、おにぎり(高菜の目はり・昆布・鮭若布)、お総菜(焼き魚・牛蒡・人参・椎茸・蒟蒻の煮物)、具入り玉子焼き、酢の物(きゅうり、わらび、人参)、まくわもろん



とちの実発見!



トチの木の「ト」は数字の十の意味で実がたくさんつくことをあらわしているといわれています。しっかりとした厚い皮の中には栗のような実が詰まっています。アク抜きをすれば食用可能。「とち餅」がよく知られていますよね。

木漏れ日を浴びながらふかふかの落ち葉の上を歩く気持ちよさ…

大木に巻きついたフジのツル…

岩に広がる青々とした苔…

透き通るといふ言葉では言いあらわせないほど綺麗な、ひんやりと冷たい水…

滝のしぶきが空中に広がり、それを樹木たちが、

おおきく深呼吸するかのように吸い込んでいく

自然の鼓動を感じる不思議な空間。

雨上がりの、森が活動を始める瞬間の百間山渓谷は言葉で表された「神秘的」といふ言葉だけでは表現しきれない「何か」を発していました。しつとりと湿った空気の中に吸い込まれていく感じと永遠に続くのかと思つほどの静けさ。

その「静の世界」の中、満ち満ちた生命力と自然の力強さ、迫力にすっぽり包まれる心地よさをしっかりと感じました。

アスファルトの道があり、車が走る日常の世界の裏側のこんなちかかくに非日常的空間が広がっていることに、改めて感動するのです。

